

令和8年度第5回 太田市1%まちづくり会議 議事概要

会議の名称	令和8年度第5回1%まちづくり会議
開催日時	令和8年8月27日(木) 18:00~19:50
開催場所	太田市役所 5階 5A 会議室
出席委員 (代表氏名)	1%まちづくり会議 佐藤 広大 委員長 他11名

1. 開会

2. 挨拶

佐藤委員長より挨拶

3. 協議事項

(1) 6次募集審査について(申請6件 No.104・141(再提案)、137~140)

No.138 DOYOU ILLUMI OTA 2026-2027(東毛経済同友会)

団体:3年前にオープンハウスアリーナの前でイルミネーションを実施した。その時は会の事業費だけでやったが、皆さん恐らくそこでやったのを知らないレベルでしかできなかった。事業実施場所は、そこに集まる方やウォーキングをしている方もたくさんいるので、とてもいい場所になると考えた。ただ私どもの事業費でやるとボリューム感を持たせるのはなかなか難しいので、今回1%を利用してイルミネーションができればいいと思って提案した。

委員:どんな団体か一般的に認知されているのか。ネットで読んだら、私どもが手に届くような会ではない印象を受けた。どういう事業をメインに行っているのか。

団体:東毛経済同友会は東毛と謳っているが、会員のほぼ8割が太田で会社をやっている方、一般の従業員の方もわずかにいるが。活動の中心は太田市。あくまでも東毛地区、太田市を中心とした地域に根ざした経済団体。商工会だと上部団体があって、それについて一つの団体になっているが、私どもは基本的には上部団体はなく、地域に根ざした活動をしている。

委員:イルミネーションの取り付けを子供たちにやってもらうのは良いが、高いところに対して、子供たちがやるのは危ないのでは。

団体:危険性は想定している。設営を合計5日間で想定しており、最初4日間で高所作業車を使った取り付けを同友会で行い、最終日に仕上げで植栽の下の部分の飾り付けを小学生50名と、その保護者50名、合計100名で一緒にやる形で想定している。

委員:イルミネーションを買うのにジョイフル等は考えなかったのか。

団体:確認したが、規模が大きくなると動きがあまり良くなかったのが、今回は関綜エンジニアリングにお願いした。他の部材は、ジョイフルで見積もりが出た。また、同友会のメンバーは飾り付けに不慣れなので、関綜エンジニアリングから指導員を1人お願いした。そうするとしっかりした飾り付けができると考えた。

委員:市役所のイルミネーションをやっていたと書いてあるが。

団体:元イルミネーションを灯す会のお手伝いをしていた。灯す会が北部運動公園のイルミネーションもやっていたが、その活動を止めてしまうとのことで、そのタイミングで手伝いを終了した。今は市役所職員がイルミネーションの飾りつけを行っていると聞いている。

委員:伊勢崎建設の見積もりがだいぶ安いと思うが。

団体:経費を抑えなくてはならない中で、できる限り安く出してもらった。

委員:会社の方に聞いたところ、部品代くらいしかない、人件費がほとんど入ってないとのこと。

団体:最初の想定では北から南までの街路樹全てやりたかったが、かなり広くなるので、オープンハウスアリーナの前の部分に今回は限定し、値段も抑えてもらった。

委員:主催が東毛経済同友会となっているが、組織委員会を作ったらどうか。

団体:事業を継続したいので、今回私共でしっかり指導することで、継続性を出したいと考えた。

委員:いろんな人が入っているから、一つの組織でやったら良いと思った。同友会がメインだが、組織委員会を作ってやっていると言う方が良い気がする。

委員:装飾作業に旭小のミニバスチームがあがっているが、どういう関係なのか。

団体:ミニバス協会と話して、運動公園が地元の子供たちの方が喜んで飾り付けを手伝ってくれるのではと考えた。点灯式にも来てもらうことになっている。旭小と九合小のチームにお願いしている。

委員:子供たちにとって楽しいイベントだと思う。というのも私は旭小の野球チームに携わっている。

団体:バスケットボールがオープンハウスアリーナで行われているのもあって、そこでプレーする子供たちが身近で喜ぶかなということで、声かけをした。

委員:点灯式には誰でも参加できるのか。

団体:はい。

委員:予算規模は木崎音頭まつり、北口の太田まつり等と同等なので、ある程度の来客はほしい。飾りつけは5日間で行うと言っていたが、ほとんど業者ではないか。

団体:飾りつけは同友会のメンバー6人で5日間かけて行う。そして子供たちを加えて最後の仕上げをやる。基本的には1日6人×4、5日なので延べ人数は30人から40人くらい。電気設備は危険性もあるので、業者にお願いする。

委員:皆さんがやる部分は非常に限定的なのでは。また、5日間でやるのは難しいのでは。

団体:競技場から電気を取る。そこから飾りまで電源を持ってくるのは電気工事業者。木に飾りを付ける部分は我々で実施する。日数は、このペースでやれば間に合うと聞いている。

委員:事業内容はいいと思う。ただ崇高な理念を持って組織されている東毛経済同友会が、なぜ1%事業を申請するのか。1%事業は非常に小さな舞台で、みんなで知恵と汗を出して地域コミュニティを活性化させることが大きな目的。大きな団体がこの小さな団体に財源を求めるところに合点がいけない。クラウドファンディング等で財源を見つける方がいいと個人的には思った。

団体:崇高なというありがたい言葉をいただいたが、会員の1人としてそこまでのイメージはなく、会費はおそらく他団体よりも非常に低いと思う。中小企業という聞こえはいいが、個人でやって

いる方もたくさんいる。同友会は、大きく会社をやっているというより、小さい会社の経営者の集まりなので、目線的には皆さんと同じ感じ。自分たちの力だけでやったのが足りなかったのもあり、力を貸していただきたい。

委員：地域を巻き込んだ PR をするのか。クレインサンダーズにも働きかけているのか。点灯式関係のイベントをやるのか。またイルミネーションが 1%まちづくり事業で実施されているとの表示は考えているか。

団体：サンダーズとは話しており、喜んでもらっている。点灯式と試合の開催日が重なると混乱がおきるので、その日を外しているが、チームとしては協力するともらった。採択となり、この事業を実行できるとなったら、チラシを学校に展開してもらおう話もしている。太田市内に事業を伝え、巻き込んでやりたい。

団体退席

委員：私はやっぱり合点がいかない。もっと大きなステージで活躍してほしい。社会貢献が一つのメインなので 1%に 200 万円と言わず、オープンハウスアリーナがあるなら、クレインサンダーズがいるなら、新井会長に言えば 300 万円くらい出してくれるのでは。だからまず動いてみるのが大事だと思う。それが経済同友会のいう社会貢献だと思う。我々は地域コミュニティの醸成が目的だから、違うステージで頑張ってもらいたい。

委員：東毛経済同友会の年間予算が 665 万円くらい。少しずついろんなところにお金を出しているらしい。クラウドファンディング等でお金を集めたらという話は一応考えているとのことだった。今年事業を始めてこれからも続けていきたいと言っていたので、今後の課題もあるが、今回は賛成したい。

委員：やること自体はいいが、1%でお金を出すことがおかしいと思う。スポーツ行政と直談判して直接もらうなど。こういう事業に補助すると、最初の 1%事業の理念がねじ曲がる気がする。

委員：恐らくはぼ業者がやって子供たちにちょっと楽しんでもらうくらいの感じ。これをお祭りなどと同じ補助金を出すは違うのでは。

委員：町民の森のイルミネーションは 8 月から大体 12 月まで長い期間作業を行う。

委員：あれ予算はどのくらいか。

事務局：前年度に買ったものを使っている場合もあるが、今回の採択金額が 216 万 9000 円。

事務局：事務局とすると、この会議に出しているということは考える余地があると思っているということ。
太田市 1%まちづくり事業の補助金交付要綱には、補助対象事業者として商業、農業および経済関係団体と明記されている。もちろん自治会単位で行われる活動に対して補助するが、わざわざ補助対象事業者として明記されていることも考慮してもらいたい。

委員：地域がどれだけ巻き込まれて、どれだけそこへ参加するかが重要。申請する内容が悪いのではなく、相談するところが違うと思う。

委員：イルミネーションで 180 万円かかっている、その他 70 万円。来年は 70 万円くらい何とかして

と言えると思う。イルミネーションによって明るくなって人が集まって、新しいものができることは良いことだと思う。

委員:これだけの事業をやるのに、地域を巻き込んだ事業にもなってないし、クレインサンダーズとの関係もない。全面的にもっとPRした方がいい。まちの活性化にはいいと思うが。チラシも1000枚しか用意していない。

委員:同友会の支出はほとんどない。人を呼ぶなら、自分達ももうちょっと予算を出すとか、もう少し広げるとかした方が良くと思う。

委員:広い意味で、地域のためといえばその通り。1%で支出されることかが問題になると思う。例えばゴミステーションの改修や作成は1%でしか拠出しない。他でできるならそっちで、そこでも出せないものは1%でとしたときに、この事業は地域という面もあるが、例えばクレインサンダーズというスポーツの側面、教育の側面等がある。一般の公募された市民がお金を決めるので、かなり厳しく予算の申請を見ている。それなりに責任を持たなくてはならない。1%に申請せず、他ではもっともらえるかもしれない。ゴミステーションを作りたいという分の予算を削ってしまうことになる。他の補助金でできるならそちらに移っていただいた方が良いのでは。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.137 早川いずみ団地燃えるゴミステーション改修工事 第一期(早川自治会)

委員:この形のゴミステーションは収集業者が一番嫌がる。今から変えられるなら、それを伝えて。手前で開く感じにした方がいい。

委員長:仕様の変更は難しいか。

事務局:難しいと思う。伝えることはできるが、変えるかは団体次第。

委員:ゴミステーションの向きを変えて置けばいいのではないか

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.139 泉町環境美化事業(泉町)

議論なし

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.140 大門仲町夏祭り 2026(大門仲町町内会)

議論なし

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.104 太田市金山城跡竹林整備事業(竹林整備ボランティア団体金竹連)※再提案

委員:なんで二つに分けたのか。

委員長:こちらからの要望。

委員:そういう申請が良いのか。

事務局:同じ団体が2事業を出すのは全く問題ない。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.141 竹明かり作成事業(竹林整備ボランティア団体金竹連)※再提案

委員:参加費の徴収が今回はできないというのが解せない。

事務局:何度も理由を聞いているが、運営上の問題でという回答。

委員長:前は、イベントと竹林を整備する二つの事業を一緒に申請するのはどうなのかという話だったと思う。

事務局:前年度は参加費を取っていると話題になった。LED ライト代としてもらっていたが、今年度・昨年度はもらわないという話になって今に至る。

委員:イオンで販売していたという話を聞いたことがある。

事務局:その話が本当だとすると良くないが、今のところ収入はなないと伺っている。

委員:そういう話があった時点で調べた方が良くと思う。

委員:これはワークショップとしての申請だと思う。参加費をもらっているとしたら、実績で報告しなければならない。そこがうやむやだから、300円はもらわないで、竹だけ持ち帰って、自分たちで買ってみたいイメージだった。事務局が確認したら、もらわないと言っていたのに実際にはもらっていたということ。広報にも300円と載っている。加えて販売もしていたという、それは違ってくると思う。

委員:竹明かりを作るために、金山の竹を切って使おうという発想なのか。純粋に竹やぶを綺麗にしようということから出る発想なのかが非常に曖昧。

委員長より採決が諮られ、【再提案】と決定した。

栗原委員:大きい団体になってきているとあるので、決算書類等があると思うが、その提出は求めているか。

事務局:今は求めてない。その部分を確認する。

協議結果:6次募集【採択 5件】No.104, 137～140

【再提案 1件】No.141

【不採択 0件】

※詳細は別紙のとおり

4. その他

(1)採択基準の見直しについて

事務局:作成した事務局案を説明するので、次回以降意見等を聞いて見直しをしていく。

委員:実施日が会議終了後すぐになっている。例えば交付決定後、実施日までの2週間の猶予をもって提出させることはできないのか。

事務局:できるだけ早めにと伝えることはできる。4月・5月に沢山申請が来てしまっても、審査が大変な部分もある。また、4月で委員や区長の交換もあり、実行委員会を組織してないとかもあるので、お祭りの申請等がギリギリになってしまうのはしょうがない部分だとは思う。早いに越したことはないので団体側に伝える。

委員:これから変更する基準で、例えば決定個1ヶ月後でないと使えないと設けるのはどうか。

事務局:基準を設けると申請も減ってしまうと思う。申請の手間を考えて今回はしないという団体も実際にある。事務局としては設けない方が良いと思う。

委員:特に新規の案件は、申請される方は完璧だと思って出しているが、実際に正式に受理されるまでに時間がかかることはあると思う。申請する側がタイミングを見誤ることもあると思う。

事務局:ある。再提出を求める場合は、直し方を明確に伝えた上でお願いする。そういった面でも提出は早い方が良いが、あえて基準を定めるのではなく、口頭でお願いする形が今の状況にはあっていると思う。

委員:地域総務課に来る前に行政センターで相談してもいいと思う。

委員:ほとんど継続だから、事務局から事前に何月まで出してと連絡はできないのか。

事務局:約140件のうち約90件が1次募集で、継続の団体はほぼそこで応募してくる。

(2)おおた未来デザイン会議(政策継承検討委員会)について

事務局:当日は事務局3人が参加した。委員の皆さんにも、何名か参加いただきありがとうございました。当日は外部委員と市民判定人がいるが、市民判定人が事業の判断をする。要改善、現行通り、拡充等の判断基準が設けられており、それで判断する。市民判定人の判断で要改善が9人、現行通りが7人、拡充が5人、市民判定人は21人いて、途中で1人退席した。要改善という判定結果となった。参考として外部審査員の判定もあり、発展的に再構築が1人、要改善が1人、拡充が2人。外部委員からの質問のやり方だが、この事業はこういう意味で、こういう良いところあるが、ここは駄目な、ここは問題があるという流れ。それを受けて市民判定人が判断するが、状況的に事業のメリットを説明する時間が全く設けられていない。改善をしなければならないという意見が出るのが当たり前だと思う。実際、この会議の結果として全ての事業が要改善だった。ただしいろいろな意見をもらった。若年層がもっと使いやすいようにした方がいい、199行政区にもっとPRした方がいいとの意見も。それを真摯に受け止めて、今後皆さんと一緒にあり方を考えていきたい。後継者不足の若者対策という形で、別の事業を考えた方がいいのではという意見もあった。1%という枠組みの中で考えるのか、別枠で考えるのかやり方はいろいろあるが、考えていきたい。

委員:事務局や委員がPRすることも大切だと思うが、団体のやる気も必要だとも思う。やり方が難しいと言うが、実際に市役所で聞いてみたのか、行政センターで教えてもらったのか。携帯で調べたのか。他力本願なところがあると思う。この事業は税金を支給するからそれなりにちゃんとしなくてはいけない。でも1%が良かったのは、外部委員からの拡充が二つだった。

事務局:コーディネーター曰く、全国的に見ても外部委員から、拡充二人は滅多に出ないとのこと。事業的には素晴らしいとのこと。

委員:外部委員がどこまでこの事業を理解しているのか。市民判定人の判断基準は外部委員と担当とのやり取り。先日の会議と実際にやっていることはマッチしなかったと思う。4人が言いたいことを言って判断する。そうすると、どこか直した方がいいというイメージになってしまう。だから、会議の意見を市長がまっすぐ受けるのは違うと思う。1%というよりも、役所全体の流れをこうした方がいいというイメージを受けた。

5. 閉会